

学校保健

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

平成14年1月1日

No. 240

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>

(財)日本学校保健会

子どもたちの元気な笑顔と 健やかな成長のために

第51回全国学校保健研究大会で熱心な研究協議



標記大会が、昨年11月8日、9日に、千葉市の千葉ポートアリーナを主会場として、3,000余名の参会のもとに盛大に開催されました。

第51回の本大会は、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」を主題に、第1日目の全体会は、表彰式、シンポジウム、第2日目は、8課題24協議題を設けて、課題別研究協議が行われました。

第1日目のシンポジウムは、大会主題を受けて「心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ薬物乱用防止教育」をテーマに、4名のシンポジストがそれぞれの立場から提言し、コーディネーターの文部科学省鬼頭英明健康教育調査官がまとめられました。会場からも積極的に質問が出され、改めて薬物乱用防止教育の必要性を痛感しました。

第2日目の課題別研究協議では、研究協議題に沿って、学校経営と健康教育、保健学習と保健指導、心の健康、性教育・エイズ教育、疾病予防と保健管理、学校歯科保健、学校環境衛生、安全教育の8班でそれぞれ3名の方から研究発表があり、各班参加者による熱心な研究協議が行われました。

なお、同時に開催された日本学校保健会主催・平成13年度全国学校保健協議大会及び全国学校保健・学校医大会、全国学校歯科医協議会、全国学校薬剤師大会の職域大会でも、研究協議や情報交換等が行われた有意義な大会となりました。

最後に、本大会の開催にご尽力いただいた千葉県教育委員会をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、参加いただいた皆様のご健勝を祈念して、大会の開催報告といたします。

なお、来年度は、第52回大会を福井県福井市で11月に開催される予定です。

第1日目のシンポジウムは、大会主題を受けて「心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ薬物乱用防止教育」をテーマに、4名のシンポジストがそれぞれの立場から提言し、コーディネーターの文部科学省鬼頭英明健康教育調査官がまとめられました。会場からも積極的に質問が出され、改めて薬物乱用防止教育の必要性を痛感しました。

目 次

第51回全国学校保健研究大会	…1
新春座談会	
これからの学校保健を語る	…2-9
事務局だより	…10
虎ノ門	…10
新年にあたって	…11

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。FAXでお寄せください。

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	PTA	会 長	副会長	

新春座談会

これからの学校保健を語る



出席者(順不同) S D企画(有)取締役副社長 岩下 隆
 (社)日本PTA全国協議会常務理事 久慈 竜也
 高崎市学校保健会会長 重田 精一
 国立公衆衛生院顧問・名誉教授 高石 昌弘
 (財)日本学校保健会顧問 本吉 鼎三
 司会 (財)日本学校保健会専務理事 内藤 昭三

子どもを取巻く健康問題

■司会 本日は、日本学校保健会に関連のある方々にお集まりいただきました。

まず、最初に子どもたちを取巻く健康問題の現状について一番目につくのは、生活習慣病、不登校、性の逸脱行動、薬物乱用、エイズの問題等があります。

二番目には、学校と家庭・地域との連携と健康教育の問題。それに新年度から発足する総合的な学習の時間と保健教育、既にスタートした学校評議員制度との関連等と学校のシステムが変わってきています。それらに対して、これから学校保健会はどう対処していけばいいのか。重田先生からどうぞお願いします。

■重田 今あげられた事柄は、学校のなかだけではなかなか片付かないのではないかとの思いが強いです。例えば、小学校の学校保健委員会で6年生に「自分の地域でどこか危険なのか調べてごらん」と課題を出します。6年生の子には危険でないところが、1年生にとっては危険なんです。その辺をどう捉えていくか。これは、性教育の場合は更に問題が大きくなります。実は「学校と家庭・地域の連携をどうするのか、家庭はなにができるのか、その辺に踏み込まないと」とある保健大会で話題になりました。

■司会 私は、昭和47年から学校医をやっていますが、今ほどこれらの連携がいただけることはありませんでした。その辺で多方面にわたるPTA活動があると思



内藤 昭三氏

います。■久慈 日本PTAでは厚生委員会が担当しています。家庭教育の大切さはよく言われています。PTA活動に参加してくださる親はとくに問題はない。出てくださらない親をどうしたらいいか。今の時代は、多様化する価値観を認め合う感覚が時代を変えています。子どもたちの飲酒のことを話合ってみても、多くは自動販売機よりコンビニから買ってくるという。逆に酒屋の対面販売のほうが、酒を購入することを許しているということもあります。親と学校だけでなく商店街の協力が必要です。

■司会 私の東京都渋谷区の学校保健会にもPTA部会があり、代表に出ています。日本学校保健会も日本PTA協議会と連携を深めていきたいと会長以下考えています。

■高石 今のお話を伺って、「連携」は本当に古くて新しい課題だと思つづくと思います。

例の1997年の保健体育審議会答申でも、学校保健委員会、もうちょっと広げた地域学校保健委員会で「連携」をきちんとしなければいけないと書いてあります。今拝見した日本学校保健会の要覧に、確かに薬物乱用から始まって、生活リズムの乱れまでいろいろ書かれています。要は、大人の問題も含み、キーワードはなんといっても「連携」でしょう。

心とからだの健康問題

■**司会** 次に「心とからだの健康問題」について進めていただきます。日本学校保健会は要覧にあります通り22の委員会で対応しています。知識はあっても実践が伴わなければ駄目ですから、どう実践していけばよいか、長年学校現場で活躍されてきた本吉先生いかがですか。

■**本吉** 改めて、日本の教育を考えてみますと、従来は建前と本音があって、本音のところを隠しながら、建前だけで学校教育を論じてきたような気がします。

PTAも大きな問題で学校の改善・改革を叫んできた。本音のところでは、受験のために学校が終わってから3時間も4時間も子どもを塾へ行かせる。その間、挫折した子もあって、今では「心の問題」が割合大きくなった。親は塾が忙しくなると「学校の方はちょっとぐらい遅刻してもいい、休んでもいい」となりかねない。非常に当事者意識が希薄になって、学校と塾とに教育が二分化しつつある。したがって、家庭・地域との連携にしても形の上ではPTAに出席していながら、心のなかでは「うちの子どもは…」と全然別なことを考えていないか。わが子の将来に夢中になり、PTAには協力はするが、なにか燃えてこない。なんとなく心に訴えてこない気がする。

■**司会** 従来の「学校集団」という見方が、「個の重視」という方向に変わりつつあります。それをパラダイムシフト(註1)の変更と言えばそうかも知れません。学校集団の健康も自分の子どもの

健康の問題もすごく大事です。その辺がうまくいかないと、健康問題はなにかが起きてからでは間に合いません。

■**高石** 戦後半世紀の教育は、日本人全体に中流意識化が根底にあって、学歴があつていい会社、いい役所に勤めるのが幸せになると錯覚してきました。戦後教育は「人間として尊敬される本質はなにか」ということが薄れてしまいました。ドイツのマイスター制度ではないが、いろんな職業の人が、それぞれ尊敬されるべきです。

私は戦中派ですが、小学校のクラス会では、一所懸命勉強して、いい会社に行ったのに元気がない人もいるし、親の後を継いだお蕎麦屋さんが町内会長をしていて、尊敬され、慕われていて元気がいい人もいます。ですから人は多様な価値観を持つべきです。この頃は授業参観では先生が一所懸命で、お母さんの私語がむしろ大きくて、担任は大変じゃないですか。(笑い)

■**本吉** とにかく、作られた組織には非常に反発が強い。これからのPTA活動は会長さん、副会長さん、理事長さんというヒエラルキー(註2)のなかではなかなか進まないと思うんですよ。一般社会の風潮と同様、フラワーリボンの会とか和太鼓に夢中になりながら、子どものことを考えていく。今のように細分化した人の意識を、建前だけで統一して同じ道を歩みましょうと言っても無理ではないか。そこらにPTA活動の限界が赤裸々に出ているような気がします。



久慈 龍也氏

■**久慈** 群れに入れない人は孤独になってしまうし、また、別に群れを作りたいという人がいてなかなか難しいですね。

■**司会** 学校保健は、学校保健法に規定されているように、学校教育の成果をあげるという大前

註1：パラダイムシフト(社会全体の規範の移行)

註2：ヒエラルキー(ピラミッド型の階層制度)

提に立って進んできた。これは、これからも変わりませんね。

■高石 それはもうその通りです。言ってみればヘルスプロモーション(註3)の考えでございますから。住民参加であり、学校で言えば子どもたちと先生、また、PTAや地域を含めて皆で考えなくてははいけません。

■久慈 みんなでというところで「私達PTA役員は困っているのでぜひ」とお願いに行かなければと思います。

■司会 なるほど(笑い)やっぱり微妙なところがあるんですね。

この座談会のスタイルでは、初めてご出席いただいた、今日は恐らく一番若い岩下さんに民間企業から見たご意見をお願いします。

■岩下 先ず、企業は縦社会というか先輩・後輩の関係があります。

しかし、今の若い人は、2~3年上の先輩にはもう、本当に友達同士の会話です。10代になると、例えば、商談であっても友達言葉になってしまい、驚くことがしばしばあります。

そういうことで、先輩を敬うという気持ちの教育が必要なのではないか。もうひとつ。最近職場でパソコンや電子メールを使うことが当たり前になりました。出勤して同僚と一言も言葉を交えないで帰っていく。そういうこともあるんですよ。(笑い)

■司会 えらい変わりようですよ。(笑い) こういう話は若い人に聞かないとわからないから。



岩下 隆氏

■岩下 この前たまたま、内藤専務理事とある企業に主催していただいたセミナーで、何十年ぶりに中学校を訪れました。私の中学時代は1970年代なんです

が、今の中学生の会話を聞いていると、考えられない言葉が飛び交っていました。インターネットやメールなど新しい言葉がでてくる反面、先生を〇〇ちゃんと呼んでいる。友達感覚なんですね。

■司会 子どもが変わったというより、親の方が変わったのではないですか。

■本吉 話はちょっと変わりますが、昔も今も子どもは非常に好奇の目を持っていて、なにかについて感動的に受け止めるということは、変わっていませんよ。

■高石 それは、そうですね。

■本吉 教育の出発点の一つは、「感動」です。感動すれば、やってみよう、おれにもできるんじゃないかという気持になる。

私は、以前女性の長いストッキングを持ち込んで生徒に心臓の話をしたことがあります。

「今、ここにストッキングがある。最初は太い血管だよ。」それに糊をつけて、「くっただろう」。そこで、中に古新聞を詰めるんです。「これがこうなって、4つの部屋に分かれて、心臓ができたんだよ」というと「へーっ」。「だから、心臓には故障を起こすことがある。故障すると血液がながれない。そういうことがあるかないかを調べるのが、心電図の検査だよ」と。医学雑誌にある心臓の絵を見せるより、1本のストッキングの方が子どもたちの理解を深められることもある。要するに、保健教育の展開にも創意工夫が必要です。今の子どもたちは価値観が変わったといううけれども、素晴らしいものには、あのつぶらな瞳をパッと見開いて、真剣に驚くというのは、今も昔の子も変わらないと思うんです。

生きていく力

■司会 例の「生きる力」ということは、自分で課題を見つけ体験する。体系づけられた教育とは別な意味だと思います。健康教育にもそういうことが必要だということが分かりました。

■重田 最近の子どもたちの一部には、感動と

註3：ヘルスプロモーション(健康推進)

いうものが非常に足りない。「どうしてる？」と聞いても「別に…」「別にどういうんだろう？」と聞いても「別になんにもない」という。(笑い)

■**本吉** で終いには「わかんない」と。(笑い)

■**重田** 不登校生徒の話ですが、「うんと誰かに話を聞いてもらったりしたら、その人の言うことを聞くんではないか」と思い、探してみると中学生の場合、小学校6年間の間に誰か先生がいるんです。その先生の自宅に夜その子をやります。4~5日するとかなり誰にも言わないことを言い出すんです。

なにも反応がなかった子が、その先生と気持ちを通じ合って、2~3ヵ月したら学校へ行くようになりました。そんな子どもをみると感動する教育をどこかでやってくれないかと。

■**本吉** 一人の人が全部できるわけではないんです。一人ひとり、1対1なんです。

■**重田** 出会いは別れのはじめなんて言わないで。そういうチャンスも一つの方法ですね。

■**高石** 私も本当にそう思いますね。感動というのはとても大事で、もう少しアクティブに「生きる力」ではなくて「生きていく力」にしてもよかったなあと、いまだにそう思っています。

■**本吉** 「生きていく力」の方が動的な感じがしますね。

■**久慈** 中学生に「感動した本はなにかありますか」と聞いたら「走れメロス」というのが出てくるんです。「友達のために自分が殺されるかも知れない」という友達が帰ってくる。あれで友情だとか命というものを大事にしていかなければならない。最終的にはそれを分かってくれたのだという感動があったという反面、あんなのはあり得ないと冷めた言い方をする人もいます。

■**本吉** われわれの時代、多少浪花節的で、人情物語が感動を与えてくれましたが、今はだめなんですね。先生の記憶というのははいまだに残っています。そういう具合に一人ひとりに先生が教え子の印象に残る教師であって欲しい。

■**岩下** 昔は、恩師はいたんです。小学校低・

中・高学年、中、高校にも恩師がいました。今は教わった先生はいても、恩師にはなっていないような気がします。

■**重田** クラス全体でなくてもいいんですよ。一人か二人の生徒が、その先生ということですね。やっ

ぱりそれが教育を引き出したということだと思いますね。



本吉 鼎三氏

三師会(註4)は健康教育にどう参画するか

■**司会** なかなか難しい師弟関係が出てきましたね。次の課題に進ませていただきます。指導要領が改訂され、総合的な学習の時間が設定されます。これに三師会の先生は積極的にどう関わっていけばいいか。日本学校保健会はいろいろな刊行物、冊子を出しています。理想的よりも実際の方がいいと思いますが、なにかご意見をいただきたい。

■**高石** これからは今まで以上に学校の創意工夫が必要だと思います。小学校学習指導要領の改訂で、体育科の保健領域が3・4年の中学年まで下りてきたことは大変素晴らしいことです。また、総合的な学習の時間で、当初、中間発表のときには「健康」という語句がなかったのが「福祉・健康」となって関係者のご努力で入ったことは非常に大事なことです。これまで全国的に画一的に進めてきたことを反省して、PTAや地域の特性を吸収して推進していくべきです。地方分権の時代に何事も柔軟に対応していくべきでしょう。

■**司会** そうしますと、教科の健康教育や、学校行事等で三師会を含めて、それぞれの立場で知恵を出して推進していく。最終的にはどこかでドッキングするわけですね。例えばチー

註4：三師会（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）



高石 昌弘氏

ムテーティングというがありますね。あれはやっぱり発展すべきものですか。

■高石 ええ！もちろんいい。チームテーティングは非常にいいと思いますね。

コーディネーターの人が大変ですが、しかし、養護教諭や

保健主事も協力がある。例の健康優良学校表彰制度があった時代から、地方の学校を見せていただいて、各地に伝承の特色が生きていて、例えば、おじいさんが嬉々として子どもに教えている姿に感動したことがあります。

■岩下 普段、子どもは担任の指導ばかり聞いています。あるとき学校医や専門家が健康の話をされることは、子どもたちに感動を与えることになる。これは内藤先生が言われたことですが、「風邪の予防セミナー」を企業協賛でやれないか。そのセミナー企画の話合いをしていく中で、やはり日常の健康教育や保健指導を活性化させる計画が進んでいく。学校の方も、そんなセミナーが年に数回あればいいと注文がありました。

学校と家庭・地域との連携

■司会 この間、事務局長とさいたま市の地域学校保健委員会に行っていました。「学校保健訪問」ということで参加しましたが、各学校の講師が全部学校医、歯科医、それから薬剤師とみんな違うんですよ。これは素晴らしいことです。普通、講師は一人で自分の専門的な話をします。各地の学校保健会ではいろいろなことをやっているようですが。

■重田 群馬県高崎市では、学校保健委員会を全校でやっています。小学校は平均5回、多い学校で8回ぐらい。PTAのお母さんも参加する

ので、3時から始めて1時間。絶対に1時間以上にならない。それ以上になったらお母さん方は浮き足立って、学校へきたら捕虜になって帰れないと言う。次から来なくなってしまう。(笑い)子どもは、前もって図書館なんかでよく勉強していて、いきなり聞いてくる。議会のように質問内容の事前通告がない。大体、三師会の先生の方がくたびれてしまって。(笑い)「ここに書いてあったけれど、どうなんですか」などきかれ、答えられず「この次に調べてくる」ということが時々ある。(笑い)講演会にするとそのままになってしまう。

中学校区で小中合同の保健委員会を開き 議長は中学生がやっているところがある。

私が参加しているところで、保健所の保健婦さんを入れようとしたのですが、学校に断られてしまいました。ある学校は環境問題で保健所長を、その他防犯関係ということで警察署長とか防犯課のお巡りさんを入れているところもありますね。

■司会 久慈さんにお伺いします。学校保健委員会という活動をご存知ですか。

■久慈 その委員会に「学校評議員会の委員」も入っているのでしょうか。ただ、小さな学校ではなにか問題が起きると、「ああ、あそこの子だ」とすぐ分かってしまいます。プライバシーが先にくる。その辺がむづかしいですね。

生涯健康づくりへの取組み

■司会 なるほどねー。次へ進みます。ライフサイクルの流れの中で取組むべき学校保健の課題というものは勿論ありますが、厚生労働省が提唱している「健康日本21」それから「健やか親子21」があります。これからの日本最大の課題は「少子化」のことだと思います。

この辺のところで、縦の生涯保健、つまり乳幼児保健から学校保健、成人保健、老人保健という流れと、学校保健を真ん中において、例えば学校と家庭・地域との連携。それをどう組合

せていけばいいでしょうか。

■高石 「健康日本21」それから「健やか親子21」というように、地域保健も学校へアプローチしてくるし、学校は地域との連携が大事だと言っているわけです。具体的には中学校区単位でいろんな委員会を開く。そうなれば養護教諭と保健婦が互いに情報交換して勉強会をするでしょう。性の問題、薬物乱用の問題、生活習慣病だって学校だけでは解決できない。やっぱり思春期の問題は地域との連携が必要ですね。

■重田 そうですね。

■司会 テーマを決めて協議会や懇談会とかになるといいですね。子どもたちは、学校にも、家庭にも地域にも住んでいるんですから。思春期という時期ひとつ捉えてもそうですね。

■高石 子どもに成人病の話をしてもしそれは無理な話で、私はいつも「お父さん、お母さんの健康診断はどうなっているのか、おじいちゃん、おばあちゃんの体はどうなっているのか、それを考えましょうね」と。あなた方がおじいちゃん、おばあちゃんの年になってどうなるかと言

ますと「ああーそうか」となるわけです。

■重田 確かにそうでしたね。いま中学生を老人ホームに行かせてみると、年とってあんなったらという感じが強くなっているの、それで自分の家に年寄り



重田 精一氏

いても、老人ホームの年寄りを見ると、いろんな感想を持って帰ってくる。ですから高石先生がおっしゃった生活習慣病のことで中学校に2校ぐらい同じテーマで課題を出すんですが自分たちの食べ物への関心が出てきます。

■司会 これからの問題ですね。日本学校保健会ではそれに関連するのは生活習慣病の委員会になりますか。それから「健康教育のあり方、それから生涯健康づくりへの取組み」について補足意見ををお願いします。

「健康日本21」と「健やか親子21」

厚生省は21世紀に向けた健康づくりの国民運動指針として「健康日本21」を、そしてその母子保健版として「健やか親子21」を20世紀末に策定した。

「健康日本21」は全国民を対象とした、主として生活習慣病予防のための指針であったが、子どもをめぐってはそれ以外に多くの重要課題が山積しており、これからのわが国の社会を担ってくれる今の、そしてこれから生まれてくる子どもたちのためにもしなければならぬ問題を総点検し、やるべきことを整理して取りまとめたのが「健康日本21」である。

「健やか親子21」は「健康日本21」の母子保健版といえるものであり、策定に当たっては、文部省(当時)担当官も参加し、報告書は文部省の学校健康教育課を通じ、全国の教育委員会に配布された。

その推進を図る「健やか親子21」推進協議会も発足し、第1回の全国大会も平成13年6月に開催された。

要するに「健やか親子21」は21世紀の母子保健のビジョンを示すものであり、わが国のおれまでの母子保健の成果を踏まえ、の残された課題を整理し、21世紀の取り組みの方向性を提示し、当面2010年までの目標を設定し、関係機関、関係機関・団体が一体となって推進しようという国民運動計画である。

国民運動計画は、政策を決めて予算を取って実行するというスタイルでなく、それぞれの立場でやれる部分を受持って努力しようとする形式である。この計画の基盤にはヘルスプロモーションという考えがある。

<学校保健の動向(13年)から>

■久慈 最近、ある医師会から学校精神保健に関する委員会に私も呼んでいただきました。医師会の先生方から「実はPTAのみなさんと仲良くしたいんだ」というふうに言われました。本来であれば学校保健会が十分機能していればいいのだろうけど、なかなか深まりが少ないといったらいいのでしょうか。各県の事務局、これは県教育委員会が多いのですが、パイプがあってもうまく機能しているだろうか。昨年起きた大阪教育大学付属池田小の児童殺傷事件を見ても……

■司会 日本学校保健会はどうなのか、子どもの側の心の問題は扱っていますが、どこの校長先生も「子どもの問題でなく、親の問題だ」とそれは必ず言われます。(笑) 日本学校保健会はどういう対応をすべきなのか。本当に子どものことを考えれば、まず親をターゲットに何とかやってもらわないと困ります。

■本吉 難しい問題ですね。要するに豊かさが人間の心を歪めたという説もあるし、じゃあ豊かでなくなれば人間の心は元に戻るのかという話もあります。経済不況のなかでリストラがあって失業者が出る。例えば、古い衣服を出して手を加えて着るといいことはいいことです。

歴史の転換期になると、左へ振れた振り子は必ず右へ振れるんです。ですから、しばらくすればまたよくなってくるとは思いませんけれどもね。

■司会 それはもう昔からペンデュラム現象(註5)といって、行ったら戻ってくるんですよね。(笑)

■本吉 確かに子どもたちを見ていると、いまから10年前くらいの子どもたちよりも、5~6年前の子どもたちの方がまだいい。5~6年前の子どもたちより、いまの子どもの方がいいと私は思います。というの少しずつ子ども自身が分ってきていて、大人への批判眼が厳しいです。それはやっぱり生活がきびしくなると、きちんとした見方をするようになるのではないですか。

■久慈 私も一致する部分があります。昔はお

註5：ペンデュラム現象（振り子現象）

金がなくてどこも貧しかった。でも、気持ちは貧しくなくて豊かだった。父親は忙しくて、会話をしたことが殆どなかった。だけど今は、お金がないと気持ちが荒むのか、家庭では父親をぐうたらとって非難する。そのダメージが大きいんですね。

財政問題について

■司会 次に財政問題を討議していただきたい。日本学校保健会の「60年の歩み」を見てみますと、昭和の初めから現在のスタイルで始まったと聞いております。一番根っこの問題が財政問題だと思いますが、未解決という状況で。

■本吉 一般企業だと会社更生法適用ということですね(笑)

■司会 本吉先生は前専務理事として大変な苦勞をされたので、身に染み付いているのでしょうか。

■高石 財政基盤強化の話ですが、全国小中学生一人100円募金は出来ませんか。100円のうち50円は地域保健会で、残りを日本学校保健会に交付していただく。(笑)

■本吉 日本学校保健会は文科省の補助金で「学校保健センター事業」やっていて、非常にいい本を出している。地方へ行って財団の財政基盤をしっかりとするため拠出金を値上げして欲しいとお願いすると、そんないい仕事をしているんだったら文科省の補助金を値上げしてもらえと言われる。

■司会 そんな話はどこへ行ってもありますね。

■高石 「健康日本21」も「健やか親子21」も予算がつかないんです。あれはみんなでやってみましょうという方向付けなんです。だから学校保健会も同じだろうと思うんです。

■本吉 要するに、各都道府県学校保健会は日本学校保健会の傘下には入るが、会費の値上げについては、県学校保健会の財政状況が厳しいことから反対だという県があって、日本学校保健会は宙ぶらりんなんです。また、個人会員から会費をいただくにしても、徴収を誰に頼むの

か、その費用、手間賃はどうするのか等問題が出てきますからね。

■**司会** 私も前本吉専務理事の後を継ぐとき、一番先の命題は何といっても拠出金の問題で、これをなんとかしなければ後を継いだ意味がないと考えているんですけれど。

■**本吉** 日本学校保健会の役員は全部ボランティアです。委員会の出席は手当と足代だけです。

皆さんは、もう少し温かい目を持って、当事者意識をもって、ともに日本学校保健会を考えて欲しいと思います。

■**司会** 日本学校保健会は財団法人として「寄附行為」という定款によって運営されています。企業からみて、運営面について岩下さんいかがですか。

■**岩下** 私の会社は広告業です。いろんな大手企業に「学校保健会ってご存知ですか」と聞きますと、広報担当者はご存知の方が多いんですが、一般の製品マーケティングをやっている方は殆ど知りません。まず、「学校保健会」という名称の認知度を上げる。ただ上げるだけでなく、学校保健会が核となっている家庭・地域社会の橋渡しをする学校保健委員会や地域学校保健会自体の理解促進が必要だと思います。

そうすると、企業は販売している一般消費材のなかでいわゆるナショナルブランドをロングセラーにするために種々な活動をしています。いつでも、どこでも、誰でも買える、小さい子どもからお年よりまでみんなが利用してくれる商品がロングセラーになるわけです。そういうと

きにお子さんだってもっと大事なターゲットなんです。ですから小さい頃から、学校保健をサポートしてくれる企業は、やっぱり信頼度が高まるんです。

もっと企業に学校保健会に目を向けてもらうようにする。例えば、栄養や健康関連情報を学校や企業へ提供する活動、あるいは未成年者に対して、酒、たばこの販売を自粛してもらう全国的な運動などそういった活動を通じて、学校保健会を認知してもらうべきです。

■**司会** 一般企業的な理論が通るかどうか。寄附行為に縛られている日本学校保健会ですから、なんでもお金になるものならいいというわけにはいきません。日本PTAの場合はどうですか。

■**久慈** 日本PTAの場合は一人年間7円の会費です。これを9円にしようと2円の攻防をしていますよ。(笑)

■**本吉** 日本学校保健会の会費は年間60銭なんです。だから、高石先生の100円というのはものすごい金額です。

■**高石** 新春座談会ですから。(笑い)まあ、10円でもいいですが。それと、日本学校保健会は日本学校保健学会との連携をぜひ深めていただきたいと思います。

■**司会** 本来、日本学校保健会と日本学校保健学会は、学校保健の普及・振興という共通の目的で活動を行っていますから、いわば車の両輪の関係です。今後とも一層連携を深めることを心がけます。長時間、本日はありがとうございました。



「足指の変形」

骨は、一般的には硬いものと考えられていますが、生体の骨はとても柔らかく、外部よりの圧力によって容易に形を変えてしまいます。

足の形に合わない、つま先の狭い靴や、小さな靴などを履くと、母趾等の足骨は簡単に変形してしまいます。母趾が外側に曲がった状態が「外反母趾」、小趾の内向を「内反小趾」と言いますが、最近では、小学生にも多く見られるようになりました。

母趾は、運動にとってもっとも大切な働きをする指で、この指が外側に屈曲すると、指の筋力が衰え、走

足と靴のはなし(3)

力や跳躍力、踏ん張ったりする能力等も衰えます。小趾は、本来二番目に大切な働きをする指で、母趾の働きを助け、バランスをとる働きをしています。

重要な二趾が変形し、本来の機能が発揮できなければ、著しく、運動機能が損なわれることになります。

JESシューズは、足指の変形防止を考えて設計された、スクールシューズです。



日本教育シューズ協議会
岡山市西川原1丁目11番6-1号
〒703-8258 TEL.(086)272-5463

事務局だより

●地域と結ぶ学校保健会

昨年11月3日(祝日)、4日(日)「第24回ふるさと渋谷フェスティバル2001」がNHKK前・代々木公園B地区で開催され、2日間で110万人の人数で賑わった。

テント156張り(250団体)の内「渋谷区の子どもの健康」として出展したのが渋谷区学校保健会である。日本学校保健会のパンフレットと協賛企業提供の健康飲料サンプル等が飛ぶようにさばけて、二日目の午前中に用意した1,000人分がなくなった。また、子どもの健康相談に訪れる人もいた。

学校保健会と地域との連携は、古くて新しい課題である。予算も特になく創意と奉仕活動を基本に、新しい視点での取り組みを实践したのは、渋谷区学校保健会会長で内藤昭三本会専務理事である。



●OTSUKA 新漫画ヘルシー文庫「食と栄養」が刊行される

12年間にわたり漫画を通して子どもたちに健康について理解を深めてもらおうと全国の小学校に寄贈されていた「OTSUKA漫画ヘルシー文庫」(監修=日本学校保健会、推薦=日本医師会、発行=大塚製薬)が、今年より中学生を対象に刊行。第1回は「食と栄養編」。上巻/食事と体・心の健康、中巻/三大栄養素と植物繊維、下巻/ビタミン・ミネラルと水分の3冊。「ダイエットと肥満」や「植物繊維」、「水」のことなど興味深い内容がわかりやすく解かれている。構成は倉弘重(国立健康栄養研究所名誉所員)、池田義雄(前東京慈恵会医科大教授)、五十嵐 脩(茨城キリスト教大教授)、漫画は赤塚不二夫、やなせたかし、ちばてつやなど13名が参加。また、英語訳も加わり、違った角度からも健康について考えてもらおうというもの。1月中に全国の中学校、図書館などに寄贈される。



虎ノ門 (62)

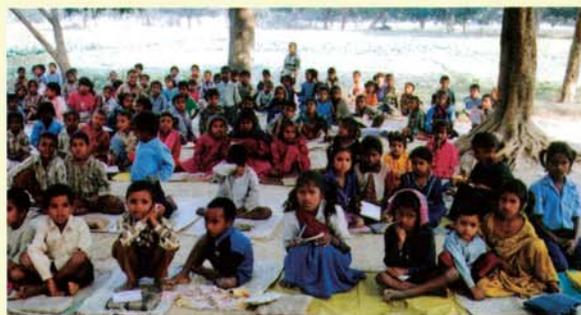
世界はいま

教育支援NGOの一員として、11月にネパールに行ってきた。活動地域はネパールでも高度の低いタライ平原で、この地は貧しい農民が多く、教育環境は極めて劣悪だ。10月~3月の乾期と4月~9月の雨期に二分された気候で、特に雨期での教室不足による野外授業が、現代の日本では考えられないくらい過酷なものがある。給食は無いに等しく、世界食糧計画(WFP)からの援助による少量の小麦粉を、簡単に調理した粗末なものだった。

こんな中で、我々は校舎の増設と保健衛生教育の指導、図書や学用品の支援を細々ながら継続している。各校4教室の増設を既に8校完了し、

順調な運営がされ何よりであった。再訪した学校の子どもの笑顔が、大きな励みを感じた。新世紀になった今日でも、世界各地で続発する紛争により、人々は苦難の日々を強いられている。健康で明るい学校生活を、全世界の子どもたちが送れるのはいつの日か。平和と安定を待ち望まずにはいられない。

(編集委員 今村 旭)



新年にあたって

(財)日本学校保健会会長 矢野 亨



新年おめでとうございます。昨年は長引く不況に伴うリストラの拡大や失業率の増加、9月には米同時テロ事件発生、暗いニュースの中で、12月に

は愛子内親王ご誕生の明るいニュースに国中が沸きかえりました。

顧みますと、20世紀は戦乱の世紀でありました。なかんづく太平洋戦争の敗戦後、わが国は経済立国を目指してそのエネルギーの大部分をこれに消費し、その成果として目覚ましい経済発展を遂げたことはご承知の通りであります。しかし、私たちは、その間最も大切なものを、どこかへ置いてきたような気がするのです。それは言うなれば「ここ」です。太平洋戦争中、戦意高揚ということで、大いに「精神」が鼓舞されました。「忠誠心」「大和魂」等など、これらは敗戦と共に一斉に「悪」のレッテルを貼られて葬り去られました。

以来、「精神」、「ここ」を声高に言うことに何となく後ろめたさを感じ、つついその発言が消極的になってしまい、その結果として、過去における子ども達への教育のなかで「ここ」の教育がなおざりにされてきたのではないのでしょうか。

こういった「ここ」の教育の欠落、弱体化が、次の世代を担っていただく子ども達に対して、物心両面に亘って計り知れない影響を与えたように思われます。まさにその「ツケ」をいま、我々が突きつけられている様な気がしてなりません。

いつの時代でも、このような社会の変化による「負」の影響を蒙り、犠牲となるのは、常に社会的弱者である子ども達であります。

昨年、米同時テロ事件直後、道行く人々が誰言うことなく星条旗を掲げ、国歌を歌うのをテレビで見て、アメリカでは、祖国愛、とか愛国心が健在だと羨ましく思うと共に、これがアメリカの強さだと、感心しました。

翻って我が国においては、かつて、冬季オリンピックの表彰台にあがった日本の若い女性選手

が、日本の国歌を歌えず、また、卒業式等で、国旗掲揚・国歌斉唱ができない一部の学校もあるという状況が見られます。

我が国では、教育の現場で「祖国」とか「愛国心」といった言葉はタブーになっているのでしょうか。私はそうは思いません。自分の国や国民を愛せない人が、どうして国を超え、人種を超えた人類愛を持つことができましようか。人類愛の「ここ」はまた隣人愛の「ここ」であります。この「隣人愛」は言葉を変えれば、「思いやり」であり、「いたわり」のここにはほかなりません。私たちは、ここ半世紀の間、なぜかこの「ここ」の尊さを忘れてきたような気がします。21世紀は、次代を担う子ども達に対する大人の責務として、それを取り戻す努力をしなければなりません。さらに敷衍するならば、文部科学省の言う「生きる力」、「生きていく力」の核となるものは、この「ここ」でもありましよう。

本年度から、小、中学校に新たに「奉仕活動」が設けられるようです。これはある意味で画期的なことでありなす。言うなれば、この事業は子どもたちの「ここ」の教育に、生涯に亘って大きな影響を与える可能性を秘めているといえましよう。現在でも私たちは、とある障害児に対するささやかな「奉仕活動」が、それに参加した子どもたちの「ここ」に素晴らしい成果をもたらした実例の数々をもっております。

このように考えますと、これからの子どもたちの「ここ」に、明るい希望の灯が見えてくるようです。日本学校保健会も期待をもって、そのお手伝いをさせていただきますましよう。



カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。



ビタミンA・D+ビタミンC



ビタミンA・D+カルシウム



製造 河合製薬株式会社 販売 河合薬業株式会社
東京都中野区中野6-3-5 ☎03-3365-1156(代)



学童の集団検尿に、 エームス尿検査試験紙。

エームス尿検査試験紙

ネフロスティックス®-L

体外診断用医薬品

バイエル メディカル株式会社
東京都渋谷区恵比寿1丁目19番15号

販売元:

三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号

JU2099-S

からだに必要な 水分とイオンの補給に

(財)日本学校保健会推薦



ポカリスエット

商品に関するお問合せは
大塚製薬株式会社 03-3292-0021
ホームページ <http://www.otsuka.co.jp/>

風邪に関する教材
無料進呈致します。

風邪の季節となりました。
冬場の水分補給について
まとめた教材を無料進呈
いたします。お申込みは
下記「健康と料理社」まで
お問合せ下さい。

お問合せ：健康と料理社 東京都千代田区九段南 4-7-19 TEL03-5275-6838 / 担当 斉藤

多人数のうがい励行に!

300® 自動うがい器

自動うがい器+ウォータークーラー

- コンパクトで洗練された一体型デザイン
- うがい薬コロロ®B.I.B容器を採用
- マイコンで自動洗浄・データ管理
- 各種オプションを用意

サラヤ株式会社
大阪市東住吉区湯里 2-2-8



0120-40-3636
ホームページ <http://www.saraya.com/>

SARAYA

